

らく しょう こう せい しゃ 楽 笑 幸 齢者になろう!

第9回 大槌町鶴亀仙柳コンクール 入選者発表

令和2年11月10日～12月11日の期間、「感謝」をテーマに介護予防川柳を募集し、多くの皆様からご応募いただきました。(応募総数 996 作品うち小中学生部門 389 作品、一般部門 607 作品)

ご協力ありがとうございました。

令和3年1月13日厳正な審査の結果、入選作品が決定いたしました。例年であれば、マストセンターコートにおいて、表彰式を開催しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、表彰式は中止し、入選作品の展示を行いました。2月24日～3月19日まで、役場1階に入選作品を展示いたします。入選者の皆様に作品に込めた思いを取材をさせていただきましたので、ご紹介いたします。(敬称略)

小中学生部門



〈最優秀賞〉小田嶋 龍佑 (大槌学園4年)
『おばあちゃん つ波から守ってくれてありがとう』
僕は双子で、震災の時は4か月でした。おばあちゃんが避難所に避難させてくれたので、今大好きな野球もできるし、10歳下の弟もできました。仏壇の写真を見ていつも感謝しています。



〈優秀賞〉北田 琥太郎 (吉里吉里学園5年)
『おかえりと まっててくれる しわの顔』
一緒に住んでいるおばあちゃん。「ただいま!」と言うと「おかえり!」と台所から出てきて笑顔で迎えてくれる。おばあちゃん的笑容を思い浮かべてありがたいという気持ちを込めました。



〈優秀賞〉佐々木 由衣 (大槌学園8年)
『おばあちゃん 腰曲がったね 私が杖』
80歳のおばあちゃんは長年漁業の仕事をして、腰が曲がってきています。将来私がおばあちゃんの漁業を受け継ぎたいという思いがあり、川柳を考えました。おばあちゃんには、これからも元気で過ごしてほしいです。



〈教育長賞〉野崎 真生 (大槌学園9年)
『おむかえを いつもありがとう おじいちゃん』
吉里吉里から大槌学園に通っていますが、おじいちゃんが、3年間毎日車でお迎えをしてくれました。おじいちゃんが大好きでこれからも元気でいてほしいです。



入選者には、賞状・マグカップなどの記念品が贈呈されました。



〈優秀賞〉藤原 綾 (大槌高校2年)
『自慢の絵 ほめてくれるの しわの手で』
幼稚園の時から、絵を描くのが好きでした。両親は遅くまで働いていたので、描いた絵を見せるのがおばあちゃんでした。絵の事でたくさん話したなと感謝の気持ちを思い浮かべながら考えました。



〈地域包括支援センター運営協議会長賞〉阿部 峯
『掛け声に 力もらって バスに乗る』
買い物にリュックをしょっていきますが、あれもこれも思った以上に買って帰りは荷物が重くなる。若い時みたいに足が上からず、バスに乗る時「よいしょ」と自分で掛け声をかける。後ろの席の方と一緒に声を出してくれる人がいて力をもらいました。

一般部門



〈最優秀賞〉ハイスこづち利用者一同
『一人身と なって感謝の 妻恋し』
妻が元気でいてくれたら、二人で、ハイスこづちにお世話になりたかったなと感じています。妻とハイスこづちへ感謝の思いを込めて作りました。



〈優秀賞〉澤館 トヨ
『タブレット のぞきこみ笑み 孫の声』
孫が千葉で看護師として働いています。新型コロナもあり顔を見たいけど、会えない日が続いていました。一緒に住む孫がタブレットを設定してくれ、徐々に遠くに住む孫の声と顔を見ることができました。すごくうれしかったです。



〈町長賞〉中嶋 幹夫 (右側 妻:せつ子)
『ありがとう せめて妻への 感謝状』
普段は妻と口げんかばかりして、反省はしているが照れくさくていえない。散歩をしながら、脳トレとして、川柳を考えました。結婚60周年です。